

rokugou roujin club
麓郷老人クラブ

人を集める仕掛けで 顔の見える関係づくり



▲麓郷小学校で子どもたちと一緒にそば打ち体験

麓郷小学校の恒例行事「麓小ふれあいまつり」が11月21日に開催され、子どもたちと麓郷老人クラブの会員がそば打ち体験などで交流しました。招待を受けた麓郷老人クラブ（武石義雄会長）は、昭和41年に設立、現在85人の会員が在籍しています。同クラブは、ゲートボールなど、日々の会員同士の交流だけに止まらず、麓郷地区で開催されている盆踊りや集落センターの花壇の花植え、麓郷街道の桜並木の植栽に関わるなど、地域に無くてはならない存在となっています。

自分たちができる範囲で地域に貢献しながらも「若い人たちに負けないくらい高齢者も頑張らないといけない」と話す武石会長。多岐にわたる活動を通して、地域住民や会員同士の絆を深め、地域の「顔の見える関係」づくりに一役買っています。

また、今回行われた麓郷小学校の子どもたちとの交流活動は、10年以上にわたって継続されています。4月には、麓郷小学校と麓郷中学校が併置化することが決まっているので、小・中学生と老人クラブの会員が、一緒に交流できる新たな取り組みも、これから考えていくそうです。

「いろいろな場面で、地域の活動に関わっています。やはり人が集まらないと何もできません。地域活動が停滞しないよう、少しでも若い人たちの支えになれるようにしたい」と話す武石会長。老人クラブは、地域住民とともに汗を流しながら、子どもから大人まで強い絆で結ばれた活動を今後も展開します。

